

# 倫 理

(解答番号  ~ )

**第1問** 以下は、高校生Cとその親Pがかわした会話の一部である。この文章を読み、下の問い(問1~10)に答えよ。(配点 28)

- C：新作のSF映画を借りてきたよ。遺伝子を操作して、身体の特徴や才能とか、生まれてくる子どもの性質を、親の望み通りにできる①未来の社会が舞台みたい。こうして生まれる子どもを、デザイナーベビーって呼ぶんだって。
- P：面白い設定だね。でも、遺伝的特徴を確実に安全に選べるとしても、②科学技術を使って、生まれる前から子どもの人生に介入することには抵抗があるなあ。
- C：どうして？ ③今の社会でも、人工授精とか体外受精が広まってるでしょ。命の誕生に関わる場面でも、こういう④新しい技術が使われているよね。
- P：それは⑤生殖を助ける技術だね。でも、君が言うデザイナーベビーって、子どもがどういう人生を送るか考えて、親が遺伝子をデザインするんでしょう。
- C：親が子どもの幸せを願ってデザインするわけだから、いいんじゃない？
- P：そう言うけれど、それって親が自分の考える幸せを子どもに押し付けて、性質をデザインしようとしているだけに思えるよ。
- C：たとえ押し付けだとしても、親が自分の知識や経験を踏まえてあらかじめ性質を決めてくれた方が、子どもは⑥幸せな人生を送れる気がするんだけど。
- P：⑦どんな人生を送るかは生まれもった性質だけでは決まらないよ。本人の努力や人との出会いも関わるし、⑧多くの問題にも直面するはず。いろんな可能性に満ちた人生を、あらかじめ決められると考えるなんて傲慢ごうまんじゃない？
- C：うーん。確かに、実際に生きてみないとわからないこともあるよねえ……。
- P：それに、親が性質を選ぶと、生まれてきた子どもの⑨自由な選択の幅が狭まる恐れもあるんじゃない？ 人生は、他人じゃなくて、自分がつくっていくものだよ。自分で決めることを通して、幸せを模索していくんだと思うなあ。
- C：幸せが何か、初めから決まってるわけじゃなくて、答えは人それぞれってこと？ 試行錯誤しながら、自分なりの幸せを見つけることが大事なのかな。
- P：そうやって悩みながら君が生きていく人生、応援するよ。

問 1 下線部②に関連して、未来の地球環境を守るため、様々な対策が取られているが、オゾン層を破壊することが判明したため、生産規制や排出抑制などの措置が取られるようになった物質として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① DDT
- ② ダイオキシン
- ③ フロンガス
- ④ アスベスト

## 倫 理

問 2 下線部①に関連して、次の文章は、近代自然科学の発達と自然観の変化について述べたものである。 **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑨のうちから一つ選べ。 **2**

近代自然科学の成立とともに、古代以来の **a** 的な自然観に代わり、新たに **b** 的な自然観が支配的となっていた。近代以降、人間は、この新たな自然観のもとで、科学の成果を技術に応用して自然の利用や開発を行い、文明を発達させてきたのである。しかし、惑星の楕円<sup>だえん</sup>軌道の法則を発見して近代天文学の発展に貢献した **c** は、天体が靈魂をもって自ら動いているという神秘的な自然観を抱いていた。この例が示すように、理性が自然を支配していくという単純な図式で語れないところに、科学の歴史の面白さがあると言えよう。

- |   |       |       |        |
|---|-------|-------|--------|
| ① | a 進化論 | b 機械論 | c ガリレイ |
| ② | a 進化論 | b 目的論 | c ケプラー |
| ③ | a 進化論 | b 目的論 | c ガリレイ |
| ④ | a 機械論 | b 進化論 | c ケプラー |
| ⑤ | a 機械論 | b 進化論 | c ガリレイ |
| ⑥ | a 機械論 | b 目的論 | c ケプラー |
| ⑦ | a 目的論 | b 進化論 | c ガリレイ |
| ⑧ | a 目的論 | b 機械論 | c ケプラー |
| ⑨ | a 目的論 | b 機械論 | c ガリレイ |

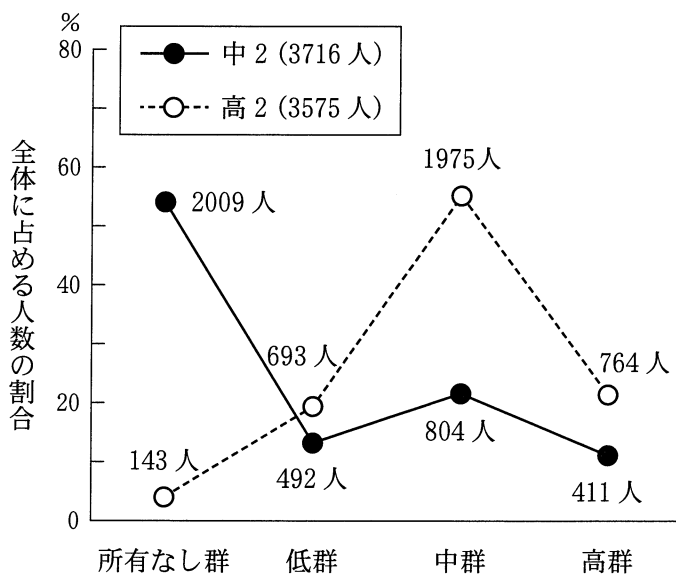
問 3 下線部㉔に関して、現代の日本社会についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 使用済み製品を回収して再利用するリサイクルの促進などを通して、限りある資源を活用する持続可能な循環型社会への転換が求められている。
- ② 核家族化が進んだ高度経済成長期を経て、少子高齢社会を迎えた現在、家族と同居しない単独世帯が増加している。
- ③ 高齢者や障害者が社会参加する際に障壁となるものを取り除き、バリアフリーを実現する街づくりが地域社会で求められている。
- ④ 社会のなかで男女の実質的な平等を実現するため、雇用者には女性を一定の割合で雇用することが法で義務づけられている。

## 倫 理

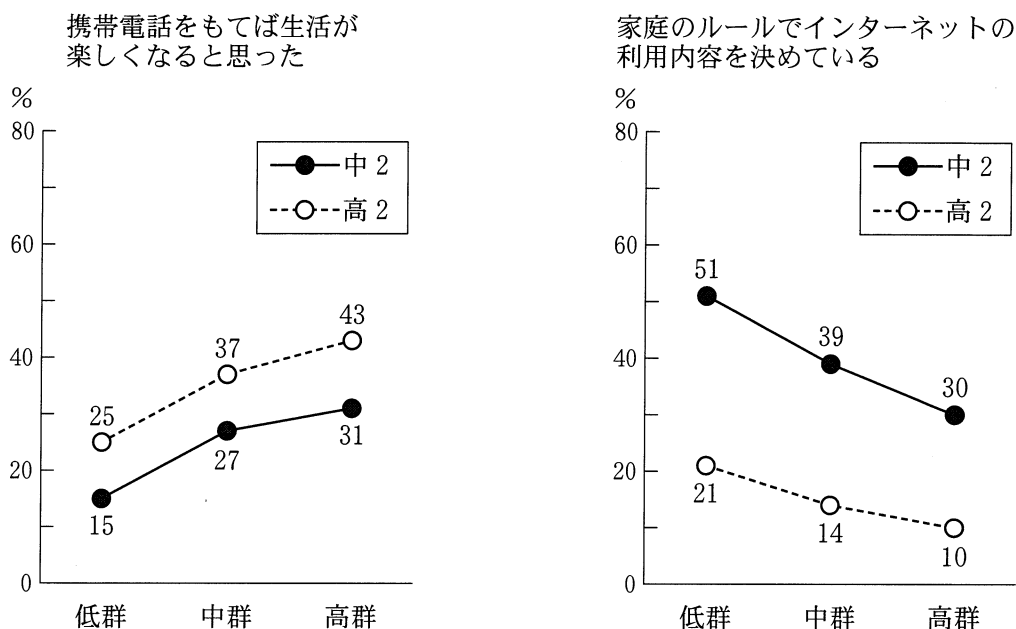
問 4 下線部㉑に関連して、次の二つの図は、携帯電話の使用について中学2年生(中2)と高校2年生(高2)を対象とした調査の結果である。まず調査対象者を、携帯電話をもっている人ともっていない人に分けた。次に、携帯電話をもっている人を、携帯電話による1日あたりのメール送受信数とインターネットの利用時間をもとに、利用頻度が高い順に高群・中群・低群に分けた。図1は各群に分けられた人数とその割合を表す。図2は、購入する前は「携帯電話をもてば生活が楽しくなると思った」という項目と、現在は「家庭のルールでインターネットの利用内容を決めている」という項目に、「あてはまる」と答えた人数の各群内での割合である。図から読み取れることとして**適当でないもの**を、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 4

図1 利用頻度ごとに群分けした人数と全体に占める割合



(注) 携帯電話による1日あたりのメール送受信数が50件以上またはインターネット利用が3時間以上の人を高群、10件未満かつ30分未満の人を低群、それ以外の人を中群とした。「所有なし群」は携帯電話をもっていない人を表す。

図2 各項目に「あてはまる」と回答した人数の各群内での割合



文部科学省「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」(平成21年)より作成。

- ① 携帯電話を所有している人は、中2では半数に満たないのに対して高2では9割を超えるが、家庭のルールでインターネットの利用内容を決めている人の割合は、すべての群で高2は中2の半分以下である。
- ② 利用頻度が同程度の群同士を比べると、携帯電話をもてば生活が楽しくなると思った人の割合は、中2よりも高2の方が高い。一方、家庭のルールでインターネットの利用内容を決めている人の割合は高2の方が低い。
- ③ 携帯電話を所有している人のうち、中群では中2と高2の人数の割合の差が他の群より大きい。その一方で、各項目に「あてはまる」と答えた人数の割合を高い順にすると、中2でも高2でも高群、中群、低群の順番になる。
- ④ 携帯電話の所有率は中2と高2で差があるが、両者に共通して、利用頻度が高い群ほど携帯電話をもてば生活が楽しくなると思った人の割合は高く、家庭のルールでインターネットの利用内容を決めている人の割合は低い。

## 倫 理

問 5 下線部㉔に関して、次のア～ウは日本における生殖技術をめぐる状況を記述したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 

5
---

ア 代理出産の利用を認めた場合、親子関係が複雑になるため、生まれた子に対する親権や養育権をめぐる争いが生じることが懸念されている。

イ 第三者から提供された精子で人工授精を行う場合、遺伝上の父親を知る権利を子どもに認めるかどうかが問われている。

ウ クローン技術の発達に伴い、ヒトクローン胚を母胎内に移植して子どもをつくるのが、法的に認められた。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問 6 下線部①に関して、人間の幸福や不幸について思索した人々の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① ベルクソンは、快楽を求める存在である人間にとって、快楽は幸福、苦痛は不幸であり、より多くの快楽をもたらす行為がよい行為だと考えた。
- ② シモーヌ・ヴェイユは、自ら工場で労働し、その体験をもとに、機械労働のシステムが人間の尊厳を奪い、労働者たちを不幸にすると考えた。
- ③ エピクテトスは、幸福な生を送るためには、感情や欲望における過剰や不足を避けて中庸を選び、実践する必要があると考えた。
- ④ 有島武郎は、幸福感と生きがい感の違いに注目し、前者に比べて後者は、未来へ向かう心の姿勢や使命感を強く含むと考えた。



## 倫理

問 7 下線部㉔に関連して、エリクソンの半生をたどった次の文章を読み、

**a** ~ **c** に入れる記述をア～カから選び、その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **7**

エリクソンは1902年に生まれ、父親の顔を知らずに育つ。放浪の旅と芸術活動を続けた青年期を経た後、ウィーンにたどり着き、そこでフロイトとその娘アンナから **a** を学ぶ。児童分析家として成長すると、新天地を求めアメリカへと渡る。文化人類学者のマーガレット・ミードやベネディクトらと交流するなかで『幼児期と社会』を著し、 **b** という人生周期(ライフサイクル)の考えを示す。社会と自己の関係についてのエリクソンの考えは、友人だったリースマンの著書『孤独な群衆』にも影響を与え、現代人が **c** 他人指向型の性格に変化してきているというリースマンの問題提起へとつながった。

- ア 人間の行動を深層心理から解明し、神経症の治療に活かす精神分析
- イ 夢や神話を通して、人類に共通の無意識を解明しようとする分析心理学
- ウ 人間にはいくつかの発達段階があり、時間をかけて自我が成長する
- エ 人間は幼児期から青年期までの各段階において発達課題を達成していく
- オ 周囲の意向や社会の評価を感じ取って、それに従い同調しようとする
- カ 自由がもたらす孤独や不安に耐え切れず、権威への服従を自ら求める

- ① a—ア    b—ウ    c—オ
- ② a—ア    b—ウ    c—カ
- ③ a—ア    b—エ    c—オ
- ④ a—ア    b—エ    c—カ
- ⑤ a—イ    b—ウ    c—オ
- ⑥ a—イ    b—ウ    c—カ
- ⑦ a—イ    b—エ    c—オ
- ⑧ a—イ    b—エ    c—カ

問 8 下線部①に関連して、個人が人生で直面する諸問題に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 幼児期に受ける虐待は、ピアジェがこの時期の発達課題としてあげた基本的信頼の獲得を困難にしかねず、自我の発達に影響を及ぼす可能性がある。
- ② アリエスは「人生には二度の危機がある」とし、一度目は誕生のとき、二度目は性をもった人間として生まれるときで、後者を第二次性徴と名づけた。
- ③ 思春期におとずれる第二反抗期は、親子間に対立関係をもたらすこともあるが、子どもが精神的に自立するプロセスの一環でもある。
- ④ 中年期以降、人は定年退職や体力の衰えなど様々な喪失を体験し、活力ある生活を維持しようとするリビング・ウィルが危機にさらされる。

## 倫 理

問 9 下線部①に関連して、フーコーは、「パノプティコン」を例にとって、近代社会における人間の主体性について考察した。次のフーコーの文章を読み、そこから読み取れる内容として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

9

この部分につきましては、著作権  
処理中の為、現在公開できません。

- ① 実際に監視者に見られていると確認できなくても、見られる可能性を知っていれば、囚人は監獄の規則に従うようになる。つまり、囚人は、規則にかなう行動を、自分で自分に強制する。
- ② 実際に監視者に見られていると確認できてはじめて、囚人は監獄の規則に従うようになる。つまり、監視者のみが、囚人に対して、規則にかなう行動を強制することができる。
- ③ 実際に誰か<sup>だれ</sup>に見られていなくても、見られる可能性を知っていれば、人は規則に従うようになる。つまり、囚人たちは、規則に従って行動することを、互いに強制し合う。
- ④ 実際に誰かに見られていることを知ってはじめて、人は規則に従うようになる。つまり、囚人は、監視者が自分を見ているか確かめながら行動することを、自分に強制する。

問10 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① Pは、幸せとは、子ども本人が自分で考え判断して生きるなかで、見いだすべきものだと主張している。Cは、生まれる前に親が望む遺伝的特徴を付与されることが子どもの幸せにつながると考えていたが、Pとの対話を通して、幸せになるとはどういうことかを再考している。
- ② Pは、遺伝的特徴を選択されるかされないかにかかわらず、誕生した時点で人はみな幸せだと主張している。Cは、自然に委ねられていたものを科学技術でコントロールしてはじめて、人は幸せになれると考えていたが、Pとの対話を通して、その是非を再考している。
- ③ Pは、幸せとは、人が生きるなかで自然と見つかるものだと主張している。Cは、親が子どもの幸せのために遺伝子操作を行うべきだと考えていたが、Pとの対話を通して、それが親を不幸にすると気づき、幸せになるとはどういうことかを再考している。
- ④ Pは、デザイナーベビーは、遺伝子操作によって親が子どもの人生を決定してしまう試みなので、認めるべきではないと主張している。Cは、デザイナーベビーとして生まれなければ子どもは幸せになれないと考えていたが、Pとの対話を通して、その是非を再考している。

## 倫理

### 第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

勉強していて、こんなことを知って何か意味があるのか、と思ったことはないだろうか。実は、それは大事な疑問である。先哲たちは、知るということに、よく生きるうえで深い意味があることを、我々に知らせてくれるのである。

かつて中国で実施された科挙では、合格のために①儒教の經典を暗記することが必要とされた。しかし、その經典の一つには「知ることが難しいのではない、行方が難しいのだ」と記されている。②イスラーム教でも、クルアーン(コーラン)を学んでアッラーの意志や命令を知り、それを社会生活において実践しなければならぬとされる。知ることは、実践のきっかけになるのであり、そこから、どう実践するかについて考えることの重要性も浮かび上がってくる。イエスが律法学者たちを批判したのは、彼らが律法を形式的に適用して、貧しさなどのため③律法を守ることができない人々を、罪人扱いしたからである。律法を知っているというのなら、弱い立場の人々と<sup>かか</sup>関わるなかで律法の根底にある神の愛の教えを実践すべきだ、とイエスは考えたのである。知ることは、④社会のなかでいかに他者とともに生きるかを考えることにつながらねばならないだろう。

一方、いかに他者とともに生きるかを考えようとするならば、自分のあり方についても考える必要がある。古代ギリシアには、世の中で生きていくうえですぐに役立つ⑤知を求めて、ソフィストに学ぶ人々がいた。しかし、⑥ソクラテスは、「本当に善く生きるとはどういうことか」という、より根本的な問いをソフィストに対して投げかけた。そうした対話は、人々に無知の自覚と、自分のあり方の問い直しを促すものであった。煩惱から完全に逃れる道を知ろうと出家した⑦ブッダも、自分のあり方についての問いを掘り下げたと言えるだろう。そして、独立した確固たる自分が存在するという考え方自体が無知の産物であり、その無知が煩惱の根本であると悟ったのである。⑧自分のあり方について考えることで、知の求め方も大きく変わるのだ。

このように、知ることは、様々に考えを深めるきっかけとなり得る。せつかく先哲の思索に触れたのである。単に知識を増やして終わりにはせず、自分と他者との関わり方や、自分のあり方について、考えてみてほしい。

問 1 下線部②に関連して、次の文章は、儒家の思想に対する他の思想家からの批判についての記述である。  ・  に入れる人名の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

は、儒家の礼や仁を人為的なものとして批判し、それらが必要ない社会こそ理想であると説いた。一方、  は、儒家の仁政という考え方を批判し、法による信賞必罰の仕組みでなければ統治はできないと説いた。

- ① a 韓非子      b 墨 子
- ② a 韓非子      b 老 子
- ③ a 墨 子      b 韓非子
- ④ a 墨 子      b 老 子
- ⑤ a 老 子      b 韓非子
- ⑥ a 老 子      b 墨 子

## 倫 理

問 2 下線部①に関して、イスラーム教の唯一神アッラーについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 一切を超越した神であり、いかなる偶像によっても表すことはできない。この神は、モーセやイエスの説いた神と同じであるとされる。
- ② 神は全知全能で、人間に審判をくださす。そして、最後の審判において、死んだ人間をすべて復活させ、天国に入れるとされている。
- ③ 一切を超越した神であり、彫像によって表すことはできない。ただし、神の肖像画のみは認められており、これがイコンと呼ばれる。
- ④ 神は全知全能で、人間に審判をくださす。そして、この審判を一千年ごとに行い、正義を確立するとされる。

- 問 3 下線部㉔に関して、律法と罪についてパウロが記した次の文章を読み、その内容を踏まえて、パウロの思想についての記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

13

この部分につきましては、著作権  
処理中の為、現在公開できません。

- ① 律法を守ることで人間が本当に救われるわけではない。人間は、既にキリストへの信仰により救われて、罪から完全に解放されているので、もはや自らの罪深さに苦しむことはない。
- ② 律法は人間に本当の罪とは何かを教える。人間は、律法で定められた罪に陥らないために、貧しい者や病気の者に金品を施す等の、具体的な行動によって神の愛を表さねばならない。
- ③ 律法を守ることで人間が本当に救われるわけではない。人間は、律法によつては、悪をなすほかない自らの罪を知るだけであり、律法ではなく、キリストへの信仰によって救いに至る。
- ④ 律法は人間に本当の罪とは何かを教える。人間は、十字架につけられて死んだキリストと同様、他者の贖罪のために自らを犠牲にすることで、律法の根底にある神の愛を実践することができる。



## 倫 理

問 4 下線部㉑に関連して、知ることと社会的実践との関係についての記述として  
適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① ムスリムは、ジハードを義務づけられている。ジハードとは、聖典を通して知られる神の意志に基づいて、神の定めた正義を世界に広めるよう奮闘することである。
- ② 王陽明は、朱子学を知性偏重であると批判して、知ことは行いの始めであり、行いにより知ることが完成する、と説いた。この考え方は居敬窮理と呼ばれ、社会を導く知識人が実践すべきものとされる。
- ③ ガンディーは、自らの政治運動において「真理把持」を意味するサティヤグラハの理念を掲げた。そこで重視されたのが、仏教やジャイナ教でも共通して説かれたアヒンサー(不殺生)の実践である。
- ④ プラトンは、『国家』において、知恵の徳をそなえた哲学者が、防衛者階級・生産者階級を治めることを理想の統治のあり方とした。この体制は哲人政治と呼ばれる。

問 5 下線部㉒に関連して、「すべての人は自然本性上知ることを欲する」という言葉から始まるアリストテレスの著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 『省察』
- ② 『形而上学』
- ③ 『自省録』
- ④ 『クリトン』

問 6 下線部㊦に関して、自らの知をめぐって、ソクラテスがどう考えていたかの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 自分に何一つ知恵はないが、人間にとって最善のことだけは知っている、と自覚していた。
- ② 自分が知者だと思いがらないために、知っていても知らないふりをするべきだと考えていた。
- ③ 自分は大切なことについて知らないので、そのとおりに、知らないと自覚していた。
- ④ 知らないと知っている以上、自分はすべてを知っていることになると考えていた。

問 7 下線部㊧に関して、ブッダの教えを表す四つの命題である「四法印」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 「諸法無我」とは、それ自体で存在するような不変の実体は何もない、という教えを指す。また「一切皆苦」とは、一見楽しそうなことも含め、この世の現実のすべては苦しみにほかならない、という教えを指す。
- ② 「諸行無常」とは、あらゆる行為は常に変転し続けるので、苦行にも意味はない、という教えを指す。また「涅槃寂靜」とは、我執を断った安らぎの境地へと至ることが理想である、という教えを指す。
- ③ 「諸法無我」とは、ブッダのもろもろの説法は、すべて「我などない」という一つの真理を表している、という教えを指す。また「一切皆苦」とは、心のなかの煩惱が一切の苦しみの原因である、という教えを指す。
- ④ 「諸行無常」とは、すべてのものは常に変転し続け、とどまることはない、という教えを指す。また「涅槃寂靜」とは、聖典に定められた様々な祭祀の執行を通して解脱に至るべき、という教えを指す。

## 倫 理

問 8 下線部①に関連して、次のア～ウは様々な思想や宗教における、知の位置づけについての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 18

ア アウグスティヌスは、哲学を「神学の侍女」と位置づけ、信仰の追求には不要であると述べている。

イ 孟子は、自分や他人の正しくない点を恥じて憎む心を養い育てていくことで、四徳の一つである智を実現できると主張している。

ウ 大乘仏教において、六波羅蜜という六つの実践徳目の一つに位置づけられている「智慧」は、迷いを離れ真実を悟る働きのことである。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 知るということは、単に知識を増やすというだけではなく、生活のあり方、他者との関わり方、ものを見方を根本から考え直し、自らのあり方についても考えを深める契機となり得る。その際には、自分は、何を、どのように知ろうとしているのか、ということを考える姿勢が必要となるだろう。
- ② 実践できてこそ、知識は意味をもつ。したがって、まずは社会生活と密接に関わる物事について知ろうとするべきである。そして、人々とともに生きていくために役立つ知識を得てそれを実践し、全体の利益につながるように、自分のあり方を反省することが重要である。
- ③ 知るということは、自分についての考え方を深めることだけではなく、社会についての考え方を深めることにもつながる。社会のなかで、自分の正しいあり方について知ることにより、我々は社会問題の原因が何なのかを正確に把握して、解決法を見いだすことができるようになるだろう。
- ④ 実践できてこそ、知識は意味をもつ。したがって、まずは今ここで自分ができることは何か、を知ることが肝心である。自分の能力の限界を超えたことまでできると考えることは思い上がった<sup>ごうまん</sup>傲慢なことであり、むしろ、自分のあり方について疑いを抱く態度が必要である。

## 倫理

### 第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

人は、個であると同時に、一人では生きられない。そのため、自己の生き方を考えるとき、他者とどのように共同して生きるのかという問いが生まれる。こうした問題は、日本ではどのように考えられてきたのだろうか。

古代、人々は、神々を祀ることで村落共同体の繁栄を願った。共同体の繁栄によって、幸せが得られると考えたのである。大陸から伝来した①仏教も、国家という共同体に安泰をもたらすものとして受け止められた。だが、仏教はまた、人はみな煩惱に苦しむ存在であり、自己の救済と他者の救済は結び付いているという教えをもたらした。その教えに基づき、最澄は他者を救う力を求めて山岳修行に努めた。自他の救済という課題は、後のいわゆる②鎌倉新仏教にも引き継がれていく。例えば、一遍は、広く人々に念仏をすすめ、ともに往生することを目指した。

江戸時代には、儒学者は、人倫関係を軽視するものとして③仏教を批判し、親子や主従など日常的な人間関係に関心を向けることを主張した。例えば、伊藤仁斎は、身近な人との共同のあり方として、④儒学の孝悌忠信という教えに注目した。一方、⑤国学者は、儒学や仏教を外来の教えとして批判した。彼らは古の日本人に、外来の教えに縛られることなく、固有の文化や言語を共有して生きる、理想の共同のあり方を見いだしたのである。

近代になり、西洋文明を受容した啓蒙思想家は、個人が自覚的に国家の担い手となる新たな国造りを目指した。福沢諭吉は、「一身独立して一国独立す」と述べ、日本の対外的な独立には、学問による一人ひとりの独立が必要であると説いた。しかし、富国強兵を目指す⑥急速な近代化のなかで、例えば、平民主義を唱えた徳富蘇峰が、徐々に国家主義的主張に転じていったように、国家重視の傾向が強くなっていく。こうした状況のなかで、高まる社会的不平等を批判し、⑦貧しい人々や女性など社会的弱者の救済を訴える者もいた。さらに敗戦後には、⑧戦時期への反省から、個人が尊重される、新たな社会の実現を目指す主張が現れた。

人は、他者とともに生きている。それゆえ、生の有り様を考える際、他者との関係を切り離すことはできない。ならば、自己がよりよく生きるために、他者との共同のあり方を模索することが重要なのではないだろうか。

問 1 下線部③に関連して、仏教による鎮護国家が目指された時代の人物である行基の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① 人間は凡夫であると謙虚に自己を認識し、この世は空しく仮のものであり、ただ仏だけが真実である、と説いた。
- ② 諸国を遊説し、橋や道を造り、民間に慈悲の精神を広めた。後には天皇の尊崇を受けて、大仏の建立にも関わった。
- ③ 都に大仏を建立し、全国に国分寺・国分尼寺を造り、僧侶に經典を讀誦させ、国家の安定や滅罪を祈願した。
- ④ 多くの苦難を乗り越えて唐から渡来した。東大寺に戒壇を設け、公認の僧となるための正式な授戒制度を確立した。

問 2 下線部④に関して、栄西の思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 外には戒律を守り、内には慈悲の心を保って坐禅に打ち込み、悟りに達することによって、自己だけでなく国家をも平安にできる。
- ② 自ら善行ができると思う人は、自分に煩惱があるという自覚がない。自らの煩惱を自覚し、阿弥陀仏の他力をたのむ人にこそ救済はある。
- ③ ひたすら坐禅をして、身心を尽くした修行が重要であり、それにより、一切の束縛から解放され、身心脱落の境地に至る。
- ④ 釈迦の教えを正しく伝える『法華経』にこそ真理がある。この經典を最高のものとして尊重し、題目を唱えることで成仏は可能になる。

## 倫 理

問 3 下線部㉔に関して、戦国時代から江戸時代の初期に、仏教を棄<sup>す</sup>てて儒学者となり、後に近世儒学の祖とされた人物として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① 西川如見
- ② 室鳩巢
- ③ 木下順庵
- ④ 藤原惺窩

問 4 下線部㉕に関して、次のア～ウは、儒学に基づいて生きることを主張した江戸時代前期の思想家についての説明であるが、それぞれ誰<sup>だれ</sup>のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 23

ア 孝に、人倫関係を成り立たせている根本原理を見だし、すべての人が儒学を学び実践すべきだと主張した。

イ 敬と義を重視して君臣関係のあるべき姿を論じるなど、厳格に朱子の教えを守って生きるべきだと主張した。

ウ 武芸を重んじ学問を軽んじる当時の武家の風潮に対し、武士は、儒学に基づき、為政者としての役割を果たすべきだと主張した。

- |   |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 山崎闇斎 | イ | 中江藤樹 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ② | ア | 山崎闇斎 | イ | 山鹿素行 | ウ | 中江藤樹 |
| ③ | ア | 中江藤樹 | イ | 山崎闇斎 | ウ | 山鹿素行 |
| ④ | ア | 中江藤樹 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 山崎闇斎 |
| ⑤ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 中江藤樹 | ウ | 山鹿素行 |
| ⑥ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 山鹿素行 | ウ | 中江藤樹 |
| ⑦ | ア | 山鹿素行 | イ | 山崎闇斎 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ⑧ | ア | 山鹿素行 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 山崎闇斎 |

問 5 下線部㊸に関して、平田篤胤の思想の説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 『万葉集』を、古の遺風を伝える書物と考え、儒学や仏教の解釈によらずに、文献学的・実証的に研究すべきだと主張した。古来の為政の理想である古道を見いだす学問を始め、国学の祖と言われる。
- ② 和歌や物語文学を通じて歌道を研究するなかで、漢意を捨てて、悲しむべきことを悲しみ、喜ぶべきことを喜ぶ、ありのままの心のはたらきを知ることこそが大切であると説いた。
- ③ 古道を知るには『万葉集』を研究すべきであると考え、儒学や仏教の影響を受けていない日本人の素朴な自然のままの境地の重要性を主張し、「高く直き心」を理想とした。
- ④ 死後の靈魂の行方を論じるなど、日本人の死後の安心にも関心を抱いた。また、仏教や儒学の教説を排除し、神の子孫である天皇を中心とした古代の道に立ち戻るべきだと、独自の神道説を唱えた。



## 倫理

問 6 下線部①に関して、日本の近代化について述べた夏目漱石の次の文章を読み、その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

25

日本の開化は自然の波動を描いて甲の波が乙の波を生み乙の波が丙の波を押し出すように内発的に進んでいるかというのが当面の問題なのですが、残念ながらそう行って居ないので困るのです。……日本の現代の開化を支配している波は西洋の潮流で、その波を渡る日本人は西洋人でないのだから、新しい波が寄せるたびに、自分がその中でいそろうをして気兼ねをしているような気持ちになる。新しい波はとにかく、今しがたようやくの思いで脱却した古い波の特質やら真相やらも弁<sup>わきま</sup>えるひまのないうちに、もう棄てなければならなくなってしまった。……これは開化じゃない、開化の一端ともいえないほどの些<sup>ささい</sup>細な事である。……我々のやっている事は内発的でない、外発的である。これを一言にしていえば、現代日本の開化は皮相上滑りの開化であるということに帰着するのであります。……それが悪いからおよしなさいというのではない。事実やむをえない、涙を呑<sup>の</sup>んで上滑りに滑って行かなければならないというのです。

(「現代日本の開化」より)

- ① 現代の開化は、皮相で外発的なものであり、それは受動的に時代に流されているということである。日本の開化は受け身ではなく、主体的で内発的な近代化でなければならないし、それは可能であると漱石は主張している。
- ② 随時新しいものを輸入し、以前の考え方を刷新することで、内発的な近代化が可能になる。新しいものを取り入れることには苦勞が伴うが、その苦勞を引き受けることで、真の近代化が可能になると漱石は述べている。
- ③ 西洋の新しいものを単に受け入れるのではなく、その中身を吟味し消化する内発的な近代化が大切であるが、実現は困難である。内発的な近代化という理想と、外発的な近代化が進む現状との落差を、漱石は指摘している。
- ④ 現代の開化は、西洋の内発的で順調な近代化と比較して、正常なコースを大きく外れたものである。このままでは日本は西洋に追いつくことはできないと、嘆くしかない悲観的な現実認識を漱石は示している。

問 7 下線部㉔に関して、次のア～ウは当時の貧しい人々や女性など社会的弱者の問題について考えた人物の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 26

ア 北一輝は、貧しい農民や労働者を救うために、現状を変革し、富が平等に分配されるようにすべきだと訴えた。そのためには、天皇と国民が直結する国家の建設が必要だと考え、『日本改造法案大綱』を著した。

イ 与謝野晶子は、歌人として、自己の感情や官能を大胆に歌い、人間性の解放を主張した。また、「元始、女性は実に太陽であった」と主張し、女性の解放を求める運動を展開した。

ウ 河上肇は、『貧乏物語』を著すなど、貧困への対策の必要を説いた。彼は、内村鑑三やトルストイの影響を受けた人道主義者であったが、後には、次第にマルクス主義的主張に傾斜していった。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

## 倫 理

問 8 下線部①に関連して、次の文章は、戦後のあるべき社会や生き方についての主張の記述である。 **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **27**

**a** は、「何となく何物かに押されつつ、ずるずると」開戦に至り、戦争をやめることができなかつた戦前・戦中の日本社会に、無責任の体系を見だし、批判的な検討を加えた。そして、戦後の社会において、 **b** による民主的な市民社会の形成を唱えた。一方、竹内好は、中国の近代化に、日本とは異なる可能性を読み取り、日本の近代化の優等生的な性格を批判し、アジアに開かれた日本のあり方を模索した。

また、坂口安吾は、人間本来の姿に戻ることを **c** と呼び、偽り飾ることのない「ただの人間になる」べきだと主張した。時流に乗って民主主義を主張する人も多いなか、彼は一人ひとりが新たな戦後を反省的に始めるべきだと説いたのである。

- |   |        |         |      |
|---|--------|---------|------|
| ① | a 丸山真男 | b 労働者階級 | c 諦念 |
| ② | a 丸山真男 | b 労働者階級 | c 墮落 |
| ③ | a 丸山真男 | b 近代的主体 | c 諦念 |
| ④ | a 丸山真男 | b 近代的主体 | c 墮落 |
| ⑤ | a 小林秀雄 | b 労働者階級 | c 諦念 |
| ⑥ | a 小林秀雄 | b 労働者階級 | c 墮落 |
| ⑦ | a 小林秀雄 | b 近代的主体 | c 諦念 |
| ⑧ | a 小林秀雄 | b 近代的主体 | c 墮落 |

問 9 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 人は、よりよく生きるために、他者との関係から目を背けず、共同のあり方を模索することが必要である。例えば、近代の啓蒙思想家は、国家と個人との関係を重要視し、個人が自覚的に担う新たな国造りを目指した。そして彼らは、国家の繁栄を優先し、個人の権利は国家の繁栄のためにのみ行使されるべきだと主張した。
- ② 人は、他者とどのように共同するのかを考えるなかで、自己のあり方を模索する必要がある。例えば、国学者は、従来の仏教や儒学の受容のあり方を、外来の教えに対して従属的であると批判した。そして彼らは、あるがままに生きた古代日本人の共同のあり方を理想化し、外来思想と積極的に共存する開かれた日本文化の確立を主張した。
- ③ 人は、よりよく生きるために、他者との関係から目を背けず、共同のあり方を模索することが必要である。例えば、仏教者は、誰もが煩惱を抱いて苦しむ存在であると考え、自他の救済について様々な試みを積み重ねていった。そして彼らは、誰もが救済されるためには、まず個を捨てて、他者と一体化することが必要であると主張した。
- ④ 人は、他者とどのように共同するのかを考えるなかで、自己のあり方を模索する必要がある。例えば、儒学者は、人と人とのつながりを省みないとして仏教を批判し、父子や君臣のような人倫関係のなかに、あるべき生き方を求めた。そして彼らは、身近な人とどのように共同するかという問題こそが重要なのだと主張した。

## 倫理

### 第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

私たちは、異文化との接触が<sup>いやおう</sup>否応なく増える時代に生きている。そうした経験は、異なる人々とどう接すべきかを考え、自らのあり方を問い直す機会を与えてくれる。私たちは、自他の違いにどう向き合うべきか。この観点から西洋近代思想をたどり直し、現代へのヒントを求めてみよう。

大航海時代を経て西洋人たちは、非西洋の人々を未開や野蛮とみなし、彼らを教化や征服の対象とするようになった。しかし、そうした一方的な姿勢に疑問を抱く者もあり、例えば、㉔ モンテーニュは、新大陸の住民よりも、征服しようとする西洋人のほうがはるかに野蛮だと述べた。一方、当時の西洋世界では宗教対立や宗教戦争が続いており、そうしたなか㉕ ロックは、異なる信仰や宗派への寛容を説いた。また㉖ ミルは、多様な個人が共存し、自由に意見をかわすことが、社会の進歩のうえで重要だと主張した。このように、寛容や自由についての思索を深めることを通して、違いを許容し合って共存する社会の姿が描き出されていったのである。

しかし、ロックは、無神論者などを寛容の対象から除外し、ミルも、彼の目からみて自立を欠く人々には自由を認めなかった。彼らには、自立した個人といった理念が、㉗ キリスト教を含めた西洋特有の価値観に依拠していることに、無自覚な面があった。それに対し、西洋的な価値観自体を㉘ 根本的に疑い、問い直す動きも現れていた。例えば、㉙ ニーチェは、キリスト教道徳は人間の生を不当に否定する奴隷道徳だと痛烈に批判した。20世紀に入ると、西洋文化は優劣を付けがたい多様な文化の一つにすぎないという見方が強まり、㉚ 既存の枠組みを相対化する思想が現れた。未開にみえる部族の文化に、近代科学に匹敵する複雑で<sup>ちみつ</sup>緻密な思考があることを示したレヴィ＝ストロースの研究は、その一例である。こうして、自己の価値観を絶対視せず、㉛ 異なるものを尊重する考えが示されるようになった。

ただし、寛容や異文化尊重を現代において真に実現するには、時には相互批判をも恐れずに対話することもまた重要だろう。尊重とは、他者と積極的に関わり<sup>かか</sup>合い、相互に理解し合ってこそ成り立つものだからである。まずは具体的な他者と接する日常生活や行動の場面で、自らのあり方を問い直しつつ、対話を可能にする共通点をそのつど探る柔軟な姿勢を大切にしよう。

問 1 下線部㉓に関して、モンテーニュの著作と思想の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 『法の精神』を著し、客観的な法と主観的な道徳の統一を主張した。
- ② 『法の精神』を著し、三権分立を唱えて当時の絶対王政を批判した。
- ③ 『エッセー』を著し、自由意志に基づく人間の尊厳を強調した。
- ④ 『エッセー』を著し、自己吟味に基づく内省的な生き方を説いた。

問 2 下線部㉔に関して、ロックの思想の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 人間の心は、生まれた当初の状態では白紙(タブラ・ラサ)のようなものであり、知識はすべて科学的な思考に由来するとした。
- ② 自然状態は、人々の間に自由と平等が完全にいきわたった理想状態であり、財産の所有といった自然権も侵されることはなかったと考えた。
- ③ 文明の進歩とともに自然状態が崩れたため、人々は自然権を一人の人間もしくは合議体に譲渡し、強大な権力による保護を求めたとした。
- ④ 人々が政府に統治を委ねるのは、自然権の保障のためであり、政府が権力を濫用する<sup>らんよう</sup>場合、人々は抵抗や革命を行う権利をもつと考えた。

## 倫 理

問 3 下線部㉔に関して、次の文章は、ミルの思想について説明したものである。

・  に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ミルは、ベンサム思想を受け継ぎながらも、 の立場を取った。それを象徴する彼の言葉「満足した豚であるよりも不満足な人間のほうがよく、満足した愚か者であるよりは不満足なソクラテスのほうがよい」は、 の重要性を表現したものである。

- ① a 質的功利主義      b 創造的知性
- ② a 質的功利主義      b 魂への配慮
- ③ a 質的功利主義      b 精神的快樂
- ④ a 社会進化論        b 創造的知性
- ⑤ a 社会進化論        b 魂への配慮
- ⑥ a 社会進化論        b 精神的快樂

問 4 下線部㉑に関連して、西洋近代思想における、キリスト教や神、信仰の捉え方についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① パスカルは、実存的生き方の最高段階を「宗教的実存」と呼び、偉大さと悲惨さの間を揺れ動く人間の不安定なあり方を直視しつつ、神の愛のもとに生きることの大切さを説いた。
- ② ルターは、教会を通じてこそ信仰が成り立ち、救済がなされるという従来のキリスト教のあり方を批判して、聖書を通じて一人ひとりが直接神と向き合う信仰の重要性を唱えた。
- ③ スピノザは、「神即自然」、すなわち神は無限で永遠の唯一の実体であり、自然そのものであるとして、すべての事物を、神を表現するものとして「永遠の相のもとに」見ることの重要性を主張した。
- ④ ウェーバーは、プロテスタンティズムの禁欲的な職業倫理が資本主義の精神を生み出したと考え、キリスト教信仰と近代産業社会の関係について新たな捉え方を示した。



## 倫 理

問 5 下線部㉔に関連して、哲学の歴史では「疑うこと」が様々な役割を果たしてきたが、次のア～ウはそれらについて説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 33

ア デカルトは、少しでも疑い得るものは虚偽としてしりぞける方法的懐疑を徹底した結果、疑っている限りの我の存在だけは確実であると考えに至った。そして、それを土台にして、一切の学問を築き上げようとした。

イ ヒュームは、経験論を徹底させて、人間の心は単なる「知覚の束」にすぎないと主張した。そしてそこから、実在するのは流れゆく知覚だけで、実体としての精神は存在しないという懐疑的立場を取った。

ウ カントは、人間の認識能力を検討して、「物自体」は認識できず、人間の主観によって対象は構成されると考えた。それゆえ、「存在することは知覚されること」だと主張し、物体の実在を否定する懐疑的結論に至った。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

- 問 6 下線部㊦に関して、次の文章はニーチェがラクダ、獅子<sup>しし</sup>(ライオン)、子ども<sup>たと</sup>の譬え話で精神の三様態を述べたものである。彼の思想を踏まえ、この文章の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

この部分につきましては、著作権  
処理中の為、現在公開できません。

- ① ラクダは伝統的な制度や義務に規律正しく従うこと、獅子はそれを批判して自由を求めること、子どもは社会形成以前の<sup>むく</sup>無垢な状態に立ち返ることを表し、理想的な社会規範を一から構想する精神のあり方を表現している。
- ② ラクダは伝統的な価値や義務に禁欲的に従うこと、獅子はそれを否定して自立を求めること、子どもは世界を無心に肯定して創造的に生きることを表し、人間精神のあるべき変化のプロセスを表現している。
- ③ ラクダは伝統的な道徳や規範に従順に従うこと、獅子はそれを拒否して欲望の解放を求めること、子どもは無垢な状態に立ち戻って自らの厳格な道徳を確立することを表し、主体的で禁欲的な精神の重要性を表現している。
- ④ ラクダは伝統的な知の権威に忠実に従うこと、獅子はそれを疑って自由な思考を求めること、子どもは経験的事実を無心に観察することを表し、科学精神のあるべき変化を表現している。

## 倫理

問 7 下線部㉔に関して、次のア～ウは既存の枠組みを相対化する見方を示した思想家についての説明であるが、それぞれ誰<sup>だれ</sup>についての説明か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 35

ア 真理、善、美などは、それが人間の生活において有用であるか否かによって決まり、具体的な状況における実践の結果に左右されるので、普遍的でも絶対的でもないとした。

イ 観察など研究活動の蓄積から理論が徐々に進歩していくという科学像に代えて、理論の枠組み(パラダイム)のなかではじめて研究活動は可能になり、その枠組みは時に革命的に変化するという科学像を示した。

ウ 個人の主観的意識を超えた構造として言語を捉え、自由で主体的にみえる人間の言語活動や思考も、そうした構造によって可能になっているとして、構造主義の成立に大きな影響を与えた。

- |   |   |       |   |       |   |       |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | ア | ソシュール | イ | ジェームズ | ウ | クーン   |
| ② | ア | ソシュール | イ | クーン   | ウ | ジェームズ |
| ③ | ア | ジェームズ | イ | ソシュール | ウ | クーン   |
| ④ | ア | ジェームズ | イ | クーン   | ウ | ソシュール |
| ⑤ | ア | クーン   | イ | ソシュール | ウ | ジェームズ |
| ⑥ | ア | クーン   | イ | ジェームズ | ウ | ソシュール |

問 8 下線部①に関して、レヴィナスは、自己とは異なる存在としての他者を重視する思想を展開した。その記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

36

- ① 「私」から出発してすべてを説明しようとする近代哲学は、他者を自己に同化する全体性の思想である。しかし、他者は同化し得ない絶対的な他性をもつ存在であり、その重みを知ることこそが、倫理の出発点となる。
- ② 人間は本来、労働を通して他者と関わり、連帯して生きる類的存在である。しかし、近代産業社会の非人間的な労働環境のもとで、このあり方は損なわれてしまい、人間の人間からの疎外が起きている。
- ③ 人間は、他者との関係のなかで存在しており、選択は他者との関係において行われ、他者を巻き込まずにはいられない。私たちは、そのようにして、全人類に自己を「アンガージュマン(参加)」させて生きているのである。
- ④ 人間精神にとって、「自分はこのよう者である」と自覚する自己意識が成り立つうえで、他者の存在は不可欠である。異なる他者のうちに自らを見いだすことで、はじめて自己意識が生じるのである。

## 倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① 西洋近代思想においては、古くから異文化尊重の考え方がみられたが、それが強い思潮になったのは、ようやく 20 世紀に入ってからである。しかし、それは異なる他者への寛容よりもむしろ自文化批判に向かったため、今や西洋文化の普遍的価値に改めて立ち返ることが必要となっている。
- ② 自他の違いをめぐる西洋近代思想は、異なる文化や考え方への寛容といった観点を経て、自文化を含む多様な価値観を認める方向に進んできた。さらに、重要なのは、異なる価値観を認めるだけでなく、違いを踏まえたうえでいかに対話を継続していくか、ということである。
- ③ 異なる価値観との衝突は、西洋近代では特に宗教の領域において現れ、宗教戦争などの惨事を招いてきた。こうした経緯からやがて、キリスト教への疑いが芽生えていったが、異なる他者への不寛容の根源である宗教は、キリスト教に限らず一般に、現代では否定されなければならない。
- ④ 異文化や異なる考え方との出会いは、現代に特有のことではなく、歴史のなかで常に生じてきたもので、それは様々な問題を生み、思想家たちの思考を促してきた。したがって、私たちはその教訓に学んで自己の価値観を放棄し、価値観の異なる他者と対話を進めるべきである。